令和7年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標		具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	授業実践力の向上	授業を考える上で必要な単元計画を見直すことを通して学校全体での授業力向上につなげる。「単元計画シート」を作成し、指導案検討会・整理会を通して、情報を共有し、意見を出し合い、「単元計画シート」を再構築することで指導力向上を図り、次の教育活動に生かしていく。	学習支援課	昨年度まで取り組んでいた「教科ファイル」は、作ることが目的になってしまったという課題が残った。授業力の向上には個々の授業を見直すことが大切ではないかとういう意見があがった。そこで、今年度は各々が単元計画を見直すことを通して、授業力の向上につなげようと考えた。	【努力指標】（教員） 授業改善の取り組みとして「単元計画シート」を活用した指導案検討や授業実践、振り返りを行う。単元計画を見直すことで、児童生徒が主体となって学ぶために、効果的な授業の組み立てや、教材の提示、発問、ICT活用等を探ることができたか把握する。	「単元計画シート」を有効に活用して、授業改善を行うことができたと考える教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	中間評価が基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員へのアンケート調査 7・12月
2	地域社会との連携	地域の学校や施設との交流を通して、交流受け入れ先の関係者が特別支援学校の教育について理解を深め、お互いの交流内容の改善につなげる。 また保護者が交流活動についてどのように感じているか把握し、活動内容を改善工夫することで児童生徒が地域社会で生き生きと活動する姿を目指す。	総務課	昨年度は震災後に活動範囲や受け入れ施設が限られる中で、各学校や特別養護老人ホームでの交流活動や、地域の商店や仮設住宅での販売活動などを行った。児童生徒も地域の方々も関わりあって、互いに楽しい時間を過ごすことができ、継続していくことが大切であると感じた。	【満足度指標】（交流相手） 地域の受け入れ先関係者にアンケートを実施し、児童生徒と関わり合う中で、心地よい関係性を築いたり、互いの理解につながったりしていると感じているか把握する。	交流活動を通して、児童生徒と心地よい関係性を築き、互いの理解につながっていると感じている割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	中間評価が基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	交流受け入れ先へのアンケート調査 随時
					【満足度指標】（保護者） 保護者に活動内容や児童生徒の様子を伝え、アンケートを実施し、児童生徒が地域の方と関わり合い、地域とつながりを持つことができる有意義な活動であると感じているか把握する。	児童生徒が地域の方と関わり合い、地域とつながりを持つことができていると保護者が感じている割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】		保護者へのアンケート調査 随時
3	安心・安全な学校作り	学校危機管理マニュアルを全員で見直し、現状に適したものに修正することを通して、常に児童生徒の安全を意識し、緊急時に即対応できるような対応力を身につける。 職員会議後10分間 地震、火災、原子力事故発生時の対応 児童生徒不明時の対応 不審者侵入時の対応	生活支援課	危機管理マニュアルを、現状に合わせて全教員で見直し、日頃から児童生徒の安全を守る意識を持つことや、災害や非常事態が起きた時に落ち着いて対応していく必要があると考えた。	【成果指標】（教員） 危機管理マニュアルを見直すことで、日頃から児童生徒の安全に対する意識を持ち、災害や非常事態時が起きた時に落ち着いて状況に応じた行動をとれると感じることができたか把握する。	日頃から児童生徒の安全に対する意識を持ち、災害や非常事態時が起きた時に落ち着いて状況に応じた行動をとれると感じることができたと回答した教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	中間評価が基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員へのアンケート調査 7・12月